

特定化学物質障害予防規則第八條第一項の厚生労働大臣が定める要件の一部を改正する件 新旧対照条文

○特定化学物質障害予防規則第八條第一項の厚生労働大臣が定める要件（平成十五年厚生労働省告示第三百七十八号）

（傍線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行
<p>特定化学物質障害予防規則（以下「特化則」という。）第八條第一項の厚生労働大臣が定める要件は、次のとおりとする。</p> <p>一 特化則第三條、第四條第三項又は第五條第一項の規定により設ける局所排気装置（同令第三條第一項ただし書の局所排気装置を含む。）にあつては、次に定めるところによること。</p> <p>イ 特定化学物質障害予防規則の規定に基づく厚生労働大臣が定める性能（昭和五十年労働省告示第七十五号。以下「性能告示」という。）第一号に規定する局所排気装置にあつては、そのフードの外側における労働安全衛生法施行令（昭和四十七年政令第三百十八号）別表第三第一号3若しくは6に掲げる物又は同表第二号1から7まで、9から11まで、13から18まで、20から25まで、27から28まで、30から31の2まで若しくは33から36までに掲げる物の濃度が、性能告示第一号の表の上欄に掲げる物の種類に応じ、それぞれ同表の下欄に定める値を常態として超えないように稼働させること。</p> <p>ロ （略）</p> <p>二 （略）</p>	<p>特定化学物質障害予防規則（以下「特化則」という。）第八條第一項の厚生労働大臣が定める要件は、次のとおりとする。</p> <p>一 特化則第三條、第四條第三項又は第五條第一項の規定により設ける局所排気装置（同令第三條第一項ただし書の局所排気装置を含む。）にあつては、次に定めるところによること。</p> <p>イ 特定化学物質障害予防規則の規定に基づく厚生労働大臣が定める性能（昭和五十年労働省告示第七十五号。以下「性能告示」という。）第一号に規定する局所排気装置にあつては、そのフードの外側における労働安全衛生法施行令（昭和四十七年政令第三百十八号）別表第三第一号3若しくは6に掲げる物又は同表第二号1から7まで、9から11まで、13から18まで、20から25まで、27、28、30から31の2まで若しくは33から36までに掲げる物の濃度が、性能告示第一号の表の上欄に掲げる物の種類に応じ、それぞれ同表の下欄に定める値を常態として超えないように稼働させること。</p> <p>ロ （略）</p> <p>二 （略）</p>